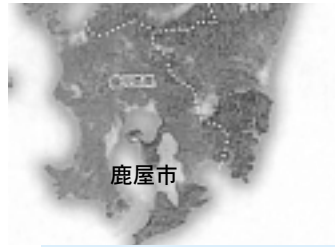


教育民生常任委員会調査報告

鹿児島県鹿屋市（柳谷集落） 地域おこしに補欠なし！ 集落みんながレギュラー

行政にたよらない地域おこしの状況を調査



鹿屋市

鹿屋市柳谷集落（通称“やねだん”）は、本土最南端大隈半島の中央部鹿屋市の中心部。集落戸数122戸、住民285人。65歳以上4割。さつまいも栽培、酪農中心の農村。



やねだん豊重館長と懇話

調査の概要

過疎・高齢化に悩む集落を、自らの知恵と汗で再生させる物語の始まりは、二十数年前、地元出身の豊重哲郎氏が帰郷し、公民館長に就任した時点で遡る。豊重氏の熱意とやる気が次第に地区内に伝播し、住民総出の地域おこしにつながった。

今、柳谷では、酪農で出る糞尿を使用した土着菌、地域産のからいもを使用し

調査の概要

た芋焼酎「やねだん」の製造販売など、集落自治会で多くの収益事業を営む。その取り組みが全国の注目を浴び、平成十九年には、その独自の地域おこしで「内閣総理大臣賞」を受賞

いまや全国から年間五千人が視察に訪れる。収益事業の利益は、一部を地域還元としてすべての住民に一人あたり一万円の特別ボーナスを出すまでに成長。その他、これを財源と

調査のまとめ

して小中学生の学力向上のための「寺子屋」の運営、高齢者宅に緊急警報装置、煙感知器の無償設置を実行している。

ひとりの熱意あるリーダーの存在が、ここまで地域の将来を左右しうることを、実地に検証できた。また、この流れを継続するため後継者の育成にも余念がないことにも注目。

鹿児島県錦江町

学校統合は住民の意向を尊重し、しつかり時間を掛けて

学校統合の取り組みを中心に調査



鹿児島県錦江町

錦江町は大隈半島の南部に位置し、農業を基幹産業とする。旧大根占町と旧田代町の二町合併で誕生。人口は8917人、総面積163.15平方キロ。過疎化が進行中。



錦江町役場で意見交換

調査の概要

旧大根占町の町長が二期目の所信表明で旧大根占町校区四中学校の二校統合方針を表明。住民説明・合意形成を経て、合併後の平成二十年に四校統合し、錦江中学校を新設。旧田代町校区の田代中学校と共に、一町二中学校体制となる。現在の生徒数は錦江中一七五人、田代中七十四人。小学校は旧町時代からの六校体制

を堅持。六校中、最も小規模の大原小（児童数十六名）の田代小への統合検討が行われたが、大原小PTA（当時）の「地域のことを考慮し、現校舎を一部減築し、存続部分のみ耐震改修して存続」との結論を尊重し、当面の小学校統合廃合は見送りとなる。スクールバスの特色ある運用では、全ルートを通じた循環として、朝夕のルートを

調査のまとめ

同方向とすることで、朝一番に乗車する生徒は、夕方は一番に下車するよう設定。乗車時間の公平性を維持するように設計している。

学校統廃合の一つに実例として、行政の方針説明・判断材料の提供↓住民の自主的な意見交換と意思統一↓行政による民意を尊重した決断という手法をつぶさに検証できた。